

## 7 水平リサイクル

2030年度までにボトルtoボトル比率50%を目指す

2023年度ボトルtoボトル比率は33.7%

### ボトルtoボトルリサイクルは215千トン

2023年度のボトルtoボトルリサイクル量は、215千トン(前年度比27.1%増)でした。国内で販売された指定PETボトルに対するボトルtoボトル比率は、33.7%(前年度より4.8ポイント増)となりました。

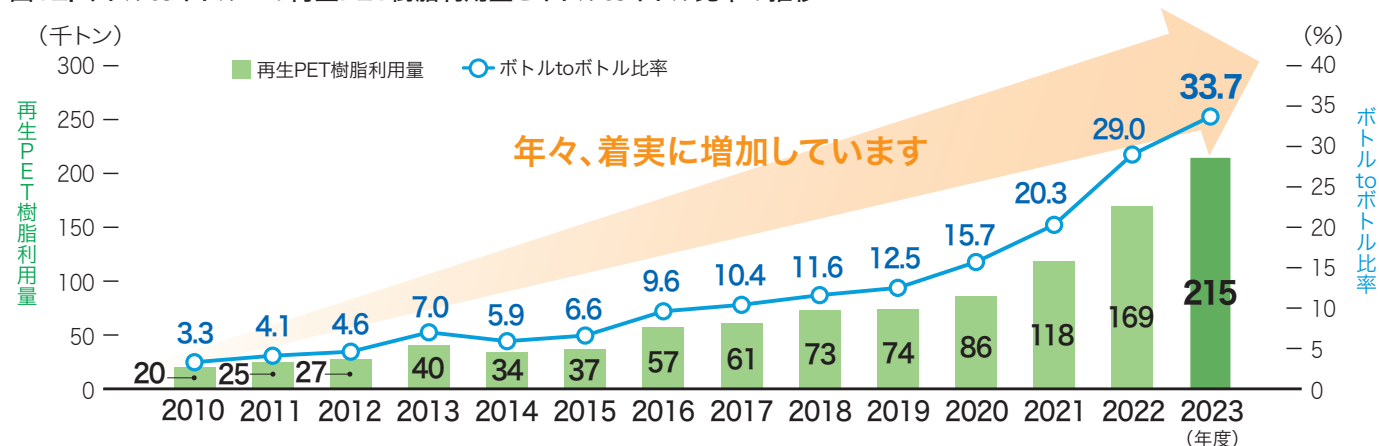
ボトルからボトルへ再生する水平リサイクルであるボトルtoボトルは、資源の有効利用やCO<sub>2</sub>排出抑制の点からも理想的なリサイクル手法です。

2021年4月に(一社)全国清涼飲料連合会が「2030年ボ

トルtoボトル比率50%宣言」を発表し、推進協議会も同じ目標を掲げ取り組んでいます。飲料メーカーの積極的な取り組みとそれに追従した再生PET樹脂の生産能力の増大により、さらにボトルtoボトルリサイクルが推進されと考えます。

ただし、回収された使用済みPETボトルに汚れボトルや異物が混入していると再生PET樹脂を製造する際に作業能率の低下や廃棄物が増えることから、質の良いPETボトルの回収が必要です。特に自販機からなどの事業系回収PETボトルの品質向上が課題となっています。

図12. ボトルtoボトルへの再生PET樹脂利用量とボトルtoボトル比率の推移



## 8 有効利用

2030年度までにPETボトルの100%有効利用を目指す

2023年度 指定PETボトルの有効利用率 98.6%

有効利用とは、使用済みPETボトルをリサイクルおよび熱回収も含め再資源として利用することです。

2023年度のリサイクル量は541千トンでした。リサイクルされなかった量は合計95千トンでその内訳は、リサイクル工程で発生する残渣が48千トン、残りの48千トンは可燃ごみ・不燃ごみとして排出された量として計算します。

残渣で熱回収された量は41千トン(海外分は含まず)、可燃ごみ・不燃ごみで熱回収された量は環境省の可燃ごみの有効利用率

95%を使用し45千トン、計86千トンを熱回収量と推定しました。

その結果、2023年度の指定PETボトルの有効利用率は、98.6%になりました。残りは、概ね単純焼却や埋め立て処理されています。

有効利用率＝

$$\frac{\text{リサイクル量} 541 \text{千トン} + \text{熱回収量} 86 \text{千トン}}{\text{指定PETボトル販売量} 636 \text{千トン}} = 98.6\%$$

図13. 有効利用率の算出(概略図)

